

日本：船舶燃料油（バンカー油）の低硫黄化に向け、新事業展開

国際海事機関（IMO）の規制によって2020年から一般海域において使用するバンカー油の硫黄含有率が3.5%から0.5%に大幅に引き下げられる。

バンカー油は世界の石油消費量の中で2%程度であるが、石油精製業界には、この規制が実施されると高硫黄重油の行き場がなくなり影響が大きい。

海運業界としては、船への排ガススクラバーの設置、燃料転換（LNG化や低硫黄油）などの対策があるが、当面は軽質低硫黄油の使用が主流となる。

このような中で、各石油会社は、SDAやディレドコーカー装置により軽質分の得率を増やし、常温固体抽出残渣やコークスはIPP発電用燃料として用いるなど、電力自由化の動きと組み合わせた新たな事業展開を行っている。石油だけに依存しない事業構築も睨みながら、バンカー油対策に取り組んでいると思われる。

（日経新聞、JPECレポート等）